

実施日：令和7年9月21日(日) 天 候：曇りのち晴れ
当日参加者：43名
行 程：約3.0km(午後から)
講 師：清水 昭博氏(帝塚山大学 文学部教授、考古学研究所長)



飛鳥の考古学「渡来系氏族・鞍作氏と坂田寺」

帝塚山大学と古都飛鳥保存財団連携で、公開講座&ウォーク「飛鳥の考古学」を実施しました。
午前中は座学講義(明日香村中央公民館)で午後からはウォーキング(明日香村内臨地講座)です。

明日香村中央公民館にて、恒例の帝塚山大学清水先生の講義。
始まりは鞍作氏の人々の人物像についてのお話です。渡来系氏族で入朝した司馬達等から始まり、坂田寺を建立したと言われる鞍作多須奈(徳斉)、日本初の出家者の鞍作嶋(善信尼)、有名な仏師の鞍作鳥(止利仏師)、遣隋使の通訳となった鞍作福利、僧尼を管理する僧都に任命された鞍作徳積、高句麗への留学生の鞍作得志、飛鳥寺建立の工人の鞍部首加



羅爾など飛鳥の歴史に欠かせない重要な人物を輩出した氏族でした。次に坂田寺の歴史についてのお話です。多須奈が坂田寺を建て始めたのは用明天皇のためですので、最古の官寺レベルの飛鳥寺より古い創建となります。その後、歴史にあらわれるのは止利仏師が坂田の地に建立した金剛寺で、この寺が坂田尼寺と呼ばれています。この坂田の地に僧寺の坂田寺と尼寺の坂田尼寺が隣接していたとも考えられるとのことでした。奈良時代に隆盛を極めた坂田寺は坂田尼寺のことです。東大寺大仏の東脇侍の観音菩薩像を寄進したのが坂田寺の尼信勝でした。そして平安時代には衰退して妙楽寺の末寺となり室町時代には興福寺最勝院の末寺となっていくとのことでした。最後は坂田寺の発掘のお話から清水先生の瓦談義で午前の部を締めくくられました。

9月21日午後の部

昼食後から座学で教えて頂いた坂田寺への臨地講座です。暑過ぎず、ほどよく雲が拡がり、ウォーキングには最適のお天気でした。まずは橘寺の西門辺り～東門辺りまで境内に入らずに仏頭山の山裾を歩きました。西門、東門それぞれの場所で、古い橘寺の歴史や伽藍や寺の立地などのお話とともに、出土した瓦や埴仏のご講義をいただきました。



都塚古墳

その後、都塚古墳から石舞台展望台まで歩き、展望台から石舞台のお話で臨地講座終了です。石舞台バス停でご参加された方々とお別れの挨拶をして共催イベントが終了しました。とても有意義な一日を過ごすことができました。

ご参加された皆様お疲れ様でした。帝塚山大学の清水先生、職員の方、本当にありがとうございました。またのご参加をお待ちしております。

坂田寺跡



橘寺から飛鳥川沿いに玉藻橋を經由してマラ石～坂田寺跡に向かいました。午前中の座学を思い起こしながら現場にてのご講義です。往時の立派な伽藍、堂宇の姿を想像しながら思いを馳せます。坂田寺跡から次に都塚古墳です。特異なピラミッド型古墳で蘇我稲目の墓ではないかと言われていましたが、清水先生のご講義ではきっぱり否定されていました。



石舞台古墳